

◇6月の代禱・信施奉献先

▽葛飾学園(サンピエール・保育園)のため▽地球環境のために祈る日(7日)▽東京

教区神学生のため(聖霊降臨後第2主日)▽沖縄週間(21日~27日)▽沖縄・ぎのわん

セミナーハウスの働きのため

▽野宿生活者の休息施設のため(きぼうのいえ)

▽6月ランチタイムパイプオルガンコンサート

①日時:16日(火)12時20分~50分

場所:東京聖テモテ教会

演奏者:向井泰子

②日時:17日(水)12時20分~50分

場所:神田キリスト教会

演奏者:八代紀子

いずれも、入場無料

▽日本聖公会史談会開催

日時:6月20日(土)10時~

場所:管区事務所3F

テーマ:本田増次郎とユーモア  
講師:長谷川勝政氏(本田増次郎研究家)

▽東日本大震災支援報告会

3・11原発事故から4年が経過し変わりつつある人々の暮らしと心模様

報告:越山健蔵司祭(東北教区郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師)

日時:6月27日(土)14時

場所:八王子復活教会

主催:多摩教会グループ協議会

会場献金あり

▽教会にJAZZが来た!

日時:6月27日(土)17時

場所:聖アンデレ教会

出演:竹下ユキ&Big Wing Jazz Orchestra

料金:2千円(前売り) 2千2百円(当日)

問合せ:聖アンデレ教会

TEL 03(34331)2822

▽唱詠晚禱

日時:6月28日(日)16時  
場所:立教女学院聖マーガレット礼拝堂

司式:メッセージ:上田亜樹

指揮:オルガン:岩崎真実子

礼拝で捧げられた献金はバヌアツのサイクロン、ネパール

大地震、東日本大震災の被災者支援のために用いられる。

◆教役者レクイエム

6月17日(水)10時半

場所:主教座聖堂

説教者:山口千壽司祭

▽司祭 山縣与根二▽伝道師

梅本惣吉▽司祭 山縣雄杜三

▽伝道師 伊木久次郎▽司祭 東信行▽伝道師 山口千里▽司祭 秋山基一▽司祭 宅間信

基▽司祭 寺井俊健▽伝道師 山田チヨ▽司祭 堀正一▽司祭 山崎正雄▽司祭 大野俊朗

▽司祭 柴田通三

◆とこしえの平安

6月5日 岩柳 黎子(85)

6月7日 東 健二(55)

6月11日 梅澤美智子(92)

聖ガブリエル

清瀬

目白

1

今週・来週の予定  
6月14日~27日

14(日)	聖霊降臨後第3主日 主教巡回 聖バルナバ教会
16(火)	常置委員会 外濠G牧師協議会
17(水)	教役者レクイエム(主教座) 教区再編成準備室 宣教牧会エリア
18(木)	人権委員会 主教座聖堂活動委員会 礼拝音楽委員会 ハラメント防止委員会
19(金)	下町G牧師協議会 聖職養成委員会
21(日)	聖霊降臨後第4主日 主教巡回 聖救主教会 東日本大震災を憶えての祈り(主教座)
22(月)	財政委員会
23(火)	教財務サービス委員会
24(水)	資料保全委員会
25(木)	教区再編成準備室

## ▽奉献先紹介

「沖繩・ぎのわんセミナーハ  
ウスの働きについて」

沖繩・ぎのわんセミナーハ  
ウスは1986年2月、「多  
様な人間・文化・思想との出  
会いを通じ、主体性のあるキ  
リスト者への成長を促すと同  
時、主イエス・キリストが愛  
し、共に苦悩し、歩まんとし  
た人々と共に責任的に生きる  
場づくりを目指す」ことを目  
的として沖繩の地に建てられ  
ました。主な事業としては福  
音宣教活動、大学・地域社会  
への奉仕、アジア諸国・諸教  
会との交流、研修プログラム、  
エキシメニカル活動への貢献  
等の活動を30年続けてきてお  
ります。

特に沖繩の歴史・文化・自  
然等を通して「平和を作り出  
す人は幸いである」との聖書  
の言葉を実践としていくこと  
を願う「沖繩研修プログラム」  
を提供しています。人間性を

奪われる体験した沖繩戦の実  
相を、そして、戦後70年、米  
軍基地の過重を強いられる現  
状を「歩いて、見て、考える」  
フィールドワークです。参加  
者と共に「平和」を考える研  
修です。

そして、主体性あるキリス  
ト者の成長を願う、沖繩の教  
会や地域の方々への様々な研  
修プログラムを開催しており  
ます。子どもたちの成長を願  
う「冒険エコクラブ」は25名  
の小中学生が登録し毎月1回  
元気に活動。大人のための「山  
がっこ」や地質学の視点で沖  
繩の島々を歩く「しまぞーり」  
は生まれ島の沖繩を再確認す  
る機会。ヨハネ受難曲等の「音  
楽講座」。「ヨナ書をうちなー  
口で読む会」は琉球・沖繩語  
で読む試みと琉球讚美歌を歌  
いつつ沖繩の先人たちの信仰  
にも触れる講座等、参加者の  
喜ぶ顔に励まされて取り組ん  
でいます。

沖繩・ぎのわんセミナーハ  
ウスを支えている一つが「沖  
繩キリスト教センターの働き  
を支える会」の取り組みです。  
個人団体から一口3千円（何  
口でも可能）寄せられる献金  
は励みになっております。今  
後とも沖繩の地で「教会と教  
会をつなぐ、地域と教会をつ  
なぐ」活動を続けていきます。

「ホスピスキぼうのいえの働き」  
きぼうのいえは、東京台東  
区の通称「山谷」地区にあ  
る、日本で唯一の元ホームレ  
スの方のためのホスピスケア  
施設です。2001年10月に  
開設され、これまでの14年間  
で200名あまりの方々を看  
取ってきました。全員が親類  
縁者との縁が切れており、各  
区のケースワーカーや、病院  
のメディカルソーシャルワ  
ーカーの紹介で入居してきま  
す。全員が当然のことながら  
金銭の持ち合わせなどあろう

はずがなく、皆、生活保護を  
受給しています。

ここは人生の辛酸を物心と  
もに舐め尽くした人々が入居  
してきます。きぼうのいえで  
は、公平、公正、平等の精神  
は採用していません。なぜな  
ら、個人に必要なニーズは  
多様であり、スタッフやボラ  
ンティアは、皆、入居者ひと  
り一人に必要な愛の形を提供  
するのです。そこで、皆は入  
居者にとって特別な「スペ  
シャルフレンド」となること  
が要求されます。キリスト教  
の宗教性に基づいた感性が要  
求されます。

そのため、ホームレスだ  
からと言って単に衣食住や  
医療、看護、介護を提供す  
るだけでは到底目的を達成  
したことはありません。  
彼らが負ってきた精神的、  
霊的な痛みや傷を癒すため  
の工夫が必要です。通常の  
ホスピスでは行っていない、

より深淵なスピリチュアル  
ケアが必要です。そのため  
に私たちは、ナラティブ（物  
語性）という視点をより大  
切にしています。すなわち  
「聴くからこそ語られる物語  
がある」のです。きぼうの  
いえに入居して生まれて初  
めて「無償の愛」を体験し、  
暴力や力においてではなく、  
「愛」におけるアイデンティ  
ティーを学ぶのです。その  
意味できぼうのいえは、イ  
ンドのコルカタでマザーテ  
レサが始めた「死を待つ人  
の家」をはるかに凌駕して  
「生き直して、最後まで愛に  
生きるいえ」すなわち「愛  
の修行道場」としての働き  
をしているのです。